

(様式1)

大 学 名	九州大学	学 問 分 野	人文科学
専 攻 等 名	比較社会文化学府日本社会文化専攻、比較社会文化学府国際社会文化専攻、人文科学府歴史空間論専攻、人文科学府言語・文学専攻		
拠点のプログラム名称	東アジアと日本：交流と変容		
拠点リーダー氏名	今西 裕一郎	所属部局・職	人文科学研究院・教授
プログラムの概要	九州大学の「知」を結集し、アジア/日本の交流・変容をめぐる基層から近代までの長期的変動を解明し、新たなアジア認識、ひいては新<アジア学>を構築して、アジアから世界に発信する研究者・高度専門職業人を養成する。		
拠点形成の目的・必要性	東アジア諸社会における交流、および日本と東アジア諸社会との交流を通して社会文化の変容が引き起こされたという歴史的展開を、東アジア諸社会間の交流と、アイデンティティの形成・変容をキーワードとして、日本史、東洋史、朝鮮史、考古学、日本語学・文学等の学際的共同研究によって解明することを目的とする。このような作業を通じて、グローバル化する世界の中で、近隣地域との関係にしっかりと立脚した日本の新たなアイデンティティの模索と確立に寄与する。		
研究拠点形成実施計画	本研究は、東アジア諸社会における交流、および日本と東アジア諸社会との交流を通して、社会文化的変容が引き起こされたという歴史的展開を、それぞれの社会および集団・個人の意識あるいは暗黙知レベルでの変容過程まで考慮しながら解明し、歴史学ならびに人文科学の新たな地平を開く。具体的には、東アジア社会の基層研究、交流と変容の研究、比較社会史の研究、東アジア史料の研究、という四つの研究領域に共通して、以下の事業を行う。1)現地研究者とのネットワーク形成。院生を含めた情報交換の場の構築。2)領域ごとの定期的研究会の開催。3)研究の中間段階で予備的成果による研究集会。最終年度に総括の研究集会を開催。4)研究成果中間報告書の作成。最終報告書の作成。5)国内外から研究者を招聘。		
教育実施計画	四つの教育ユニットごとに比較社会文化学府・人文科学府2部局合同で博士後期課程演習を開設。博士論文指導・審査も合同演習を母胎とした教官が中心として担当。世話人(担当)教官以外の指導教官は、部局・専攻の区別なく、指導教官として指導。必要な学生においては、他学府の単位を認定。2)国内外の調査を指導教官と学生が共同で行い、大学院生の個人研究の支援につとめる。3)国内外の調査および海外の大学の研究者・大学院生と共同研究会などを通じて、教育的な効果を高める。4)博士論文叢書の刊行を助成。大学院生の研究成果をすみやかに発表できる研究紀要を刊行。研究の速報的成果を大学院生がニューズレター等で発表。5)大学院博士課程学生個人による海外・国内での調査・研修・成果発表に関する助成。6)拠点プログラムに関連する世界トップレベルの国内外の研究者を招聘し、大学院生の研究活動を活性化。7)国際研究集会の運営・準備・実施に大学院生を積極的に参加させ、国際的研究者としての役割・技量を高める。8)留学生の積極的受け入れ、および海外の若手研究者の招聘による大学院生の国際交流の活発化。		

東アジアと日本 交流と変容

アジア / 日本の歴史学
九州大学の「知」の結集

C

O

E

研究

基層から近代までの長期的変動
アジア / 日本の交流
アイデンティティの形成と変容

教育

新 < アジア学 > 新たなアジア / 日本認識

< アジア専門人 > の育成

アジアから世界に発信する研究者 高度専門職業人

アジア / 日本のアイデンティティ
再構築の資源